

髪質とパーソナルカラー診断結果の因果関係の検証、およびヘアカラーの際の色の再現性における髪質の違いの重要性

Analysis on the use of hair texture differences as one of the determinants for choosing the best hair colors, and the importance of hair texture consideration for the color reproduction in hair coloring.

中根かつみ Katsumi Nakane (株) BAB カラーキャリア研究所
BAB Corp. Color Career Institute

吉澤 陽介 Yosuke Yoshizawa Evolutional Blue/千葉大学 Chiba University

Keywords: パーソナルカラー, ヘアカラー, 髪質,
4シーズン

1. はじめに

似合う色を提案する手段として、パーソナルカラーがあげられる。現在では検定試験を通して広く一般にも興味をもたれている。その中で、似合う色の要件として瞳の色、肌の色、ほくろの色などの違いをチェックする方法が存在する。今回はその要件の1つである髪質の特徴に着目したい。髪質にはいくつかの要件が存在するが、本稿ではヘアカラー後の退色およびクセ毛に着目する。

クセ毛は毛根の影響が大きく反映され、多くの日本人のくせ毛の場合、毛根がすでに曲がった状態である場合は髪がねじれたクセ毛になる。また、クセ毛にも波状毛(ウェーブ毛)と縮毛があり、直毛の髪質も加わる。そして、髪に含まれるメラニンの量の違いから、ヘアカラー後の退色がそれぞれ存在し、その特性が似合う色を診断する要件になるのではないかと推測する。

今回は、ヘアケア知識が豊富で顧客の毛髪診断が的確にでき、それに対する処置アドバイスも的確に行えるヘアケアマイスター(日本ヘアケアマイスター協会公認)が判定する髪質要素と、パーソナルカラリストが判定する4シーズンの間にどのような関係が見られるかを判定する(図1)。

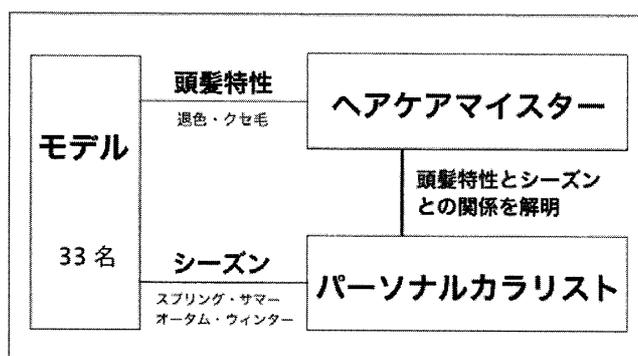


図1 本研究の全体像

2. 実験方法

(1) 必要な人員

本研究を遂行するために、モデル33名(男性15名、女性18名、年齢19~20歳)、ヘアケアマイスター3名(資格取得後1年程度)、パーソナルカラリスト4名(職務経験3~10年)を用いた。

(2) 実験の流れ

ヘアケアマイスターは、モデル33名の頭髪を観察し、質疑応答・インタビューを含め頭髪の各要素(退色、クセ毛)の評価を行った。退色に関しては「赤/橙/黄」のいずれか、クセ毛に関しては「直毛/波状毛/縮毛」のいずれかを判定するように指示をした。

またパーソナルカラリストは、モデル33名をドレープを使用して診断を観察して4シーズン(スプリング、サマー、オータム、ウィンター)のいずれかを判定するように指示した。モデルの頭髪の観察は、昼白色蛍光灯(ナショナル製FHF32HE-N-H, 照度約1100lx)の条件下で行われた。

(3) 予測の設定

ヘアケアマイスターが判定した要素とパーソナルカラリストが判定したシーズン間にどのような関係があるかを確認する為に、予測を設定した。表1は美容現場を踏まえたシーズンの予測を示す。シーズン判定が、退色のみならずクセ毛によってどのような影響を与えるかが焦点となる。

表1 美容現場を踏まえたシーズンの予測

クセ毛 \ 退色	赤	橙	黄	
直毛	ウィンター オータム/ ウィンター	オータム オータム/ ウィンター	スプリング オータム/ ウィンター	
波状毛	ウィンター	オータム	スプリング	
縮毛	ウィンター サマー	オータム サマー	スプリング サマー	上段 退色の予想 下段 クセ毛の予想

3. 結果

分析方法を基にして得られたデータは、頭髪特性の要素毎に集計され、要素毎にシーズンの割合を算出した。

(1) 退色に関して

図2 (a)は、退色におけるシーズン判定の割合を表す。表1において現場における経験に基づいた予測に対して、赤はウィンター、橙はオータム、黄はスプリングといったように、4シーズン中でトップになり、順位の上では予測の通りであった。

(2) クセ毛に関して

さらにクセ毛に関しても、図2 (b)においてシーズン毎の割合を算出した。その結果、直毛はオータム、波状毛はスプリング、縮毛はサマーがトップとなり、順位の上では予測の通りであった。

(3) 退色とクセ毛の複合

図2 (c)に退色とクセ毛を複合させた4シーズン毎の割合を示す。例えば「黄・縮毛」では、85%でサマーが選択されたが、これは表1における「黄・縮毛」の組合せにおいて「サマー」にシフトされたことを表す。表1の表を基にすると、クセ毛の判定によってシーズンが決定しそうである。その他の組合せも含め9パターン中の4パターンでクセ毛の評価が優勢、また3パターンで退色とクセ毛の評価が強め合う結果となった。

4. 考察・結論

本研究は、頭髪におけるパーソナルカラーにおいて、ヘアカラー後の退色およびクセ毛が4シーズン決定にどのような影響を与えるかを検証したものである。その結果、退色およびクセ毛の種類における4シーズンの割合の順位に関しては予測通りになった。退色とクセ毛の組合せにおいては、9パターン中4つにおいてクセ毛が4シーズン評価に影響を与えることが示唆された。

今回は、退色と髪質という素のみを取り上げたが、その他の要素（毛量、白髪など）によってシーズンの判別は変わるものと予想される。

また、今回の傾向を確固たるものにする為にはサンプル数を増やし、パーソナルカラーのシーズン判定をより明確にする事が必要である。

似合う色におけるヘアカラー提案・再現を行う為には、毛髪の特徴を知る必要がある。ヘアカラー材は毛束サンプルに染めて染料の特徴を知ることができるが、それだけでは似合うヘアカラーを理解し求める色の再現にはならない。髪質を知ってこそ似合うヘアカラー提案ができると考える。

※参考文献

ヘアケアマイスターブック（一般社団法人日本ヘアケアマイスター協会, 2009）

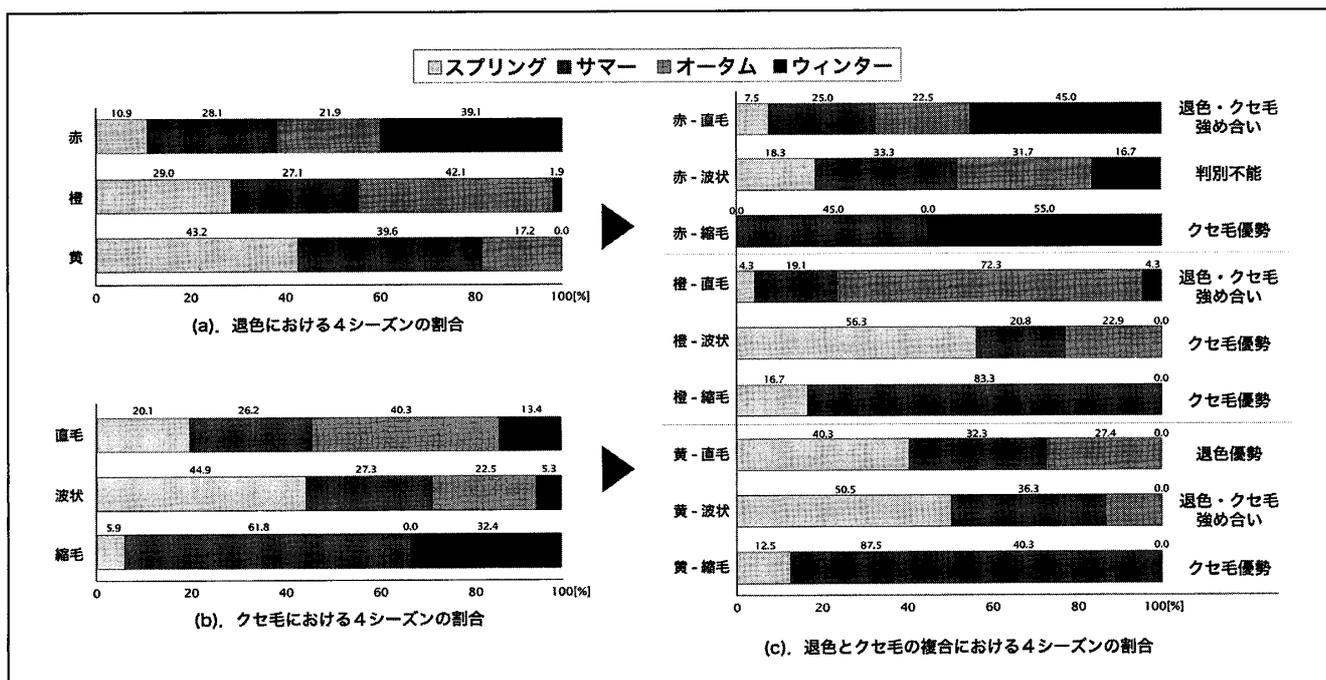


図2 4シーズン判定の割合 (a)退色 (b)クセ毛 (c)退色+クセ毛